

夏休み♥キッズわくわくスクール

「光の性質を学ぼう！～エレクトロ万華鏡～」

8月1日、社会福祉協議会矢沢支部（佐藤智明支部長）では、矢沢地域振興会と共催で矢沢小学校の児童30名を対象にキッズわくわくスクールを開催しました。始めに生産技術研究センター花巻サテライトの先生から光の性質や万華鏡についてスライドを使って説明があり、6班に分かれて、それぞれ運営委員の方や岩手大学の学生さんの指導により万華鏡の作成に熱心に取り組みました。なお参加者は講師先生6名を含む総勢47名でした。



猛暑の中、ドライバーに安全運転訴え！

交通安全協会矢沢分会（大森松司分会長）と矢沢地区交通安全母の会（高橋純子会長）は夏の交通事故防止県民運動の一環として、街頭啓発活動【夏の交通安全一服一休運動】を8月3日（土）、花巻東バイパス「もしもしピット」で実施し、ドライバーに安全運転を呼びかけました。

当日は花巻の最高気温33.8度と昨年に続いての猛暑の中でも分会や母の会、花巻警察署、花巻市交通安全対策協議会、交通指導員総勢33名が参加し矢沢地区の交通安全への関心の高さを表しました。

土曜日の午後、猛暑の中、自動車の往来は激しく、行き交うドライバーの皆さんに、チラシや、あらかじめ用意した袋詰め物品、ジュースなどを手渡し、交通ルールの順守を訴えました。



第2回自然探訪教室 浄土ヶ浜方面へ

梅雨末期の大雨も心配された7月29日、参加者（23名）の精進よろしくまずまずの天候に恵まれた浄土ヶ浜方面への自然探訪となりました。

参加者からは「久しぶりに宮古に来ました。天候が心配でしたが、無事トレッキング終えて、良い1日になりました。湿度が高く、たくさん汗をかきました」「海が見たくて参加し、ウォーキングが始まると小雨は止み、トレーニングで鍛錬になった。住友重工製の日本丸の出港を見ることができ、66歳の誕生日に思い出になる旅で、とても有意義だった。」等の感想が寄せられました。



青空も覗いた三陸復興国立公園での記念写真

矢沢地区一斉清掃 ご苦労さまでした！

8月4日（日）、矢沢地区公衆衛生組合協議会（谷川勝志会長）では、矢沢地区独自の一斉清掃活動を行いました。

地区の皆さん暑い中での作業大変ご苦労さまでした。



◎ 矢沢地区の胃がん検診日程

（矢沢振興センター：06時30分～08時30分）

- 8月26日（月）：高松第二・高木第二
- 8月27日（火）：矢沢・幸田・高松第一・高松第三
- 8月28日（水）：高木第一・高木第三
- 8月29日（木）：高木小路・東十二丁目

○ 明瞭大学8月講座は8月23日(金)10時～

講師先生は、東日本大震災・原子力災害伝承館の遠藤昭三さん、内容は「避難所生まれのアーティストが伝える震災講話」です。お待ちしております！

◎ 今年の矢沢地区文化祭

11月9日（土）～10日（日）開催

7月18日に、矢沢地区文化祭開催に向けての実行委員会（多田功委員長）三役会議で、今年度の文化祭開催の大枠について打ち合わせを行いました。改めて文化祭参加団体による実行委員会を開催し、皆様のご意見をお伺いする予定です。作品出展者、ステージ発表者の皆様には、文化祭に向けてのご準備をよろしくお願いいたします。



家族揃って生け花実演！



フラワーロール
ちゃんとパチリ！

◎ 第15回矢沢伝統芸能伝承大会

11月17日（日）13時開催

伝統芸能振興事業部会（小原昇部会長）は、7月26日に部会を開催し、第15回伝承大会概要の確認を行いました。今後、矢沢地域振興会、矢沢地区教育振興協議会、矢沢地域民俗芸能保存団体協議会の三者からなる実行委員会を中心に具体化を進めて参ります。地域の皆様のご協力をお願いいたします。



小学生も出演のご祝い唄



伝統を支える若き力！

【事務局員のつぶやき】（花巻空港の航空気象観測は？）

吾輩は地元である盛岡地方気象台花巻空港出張所に延べ4回も勤務したことがあり、仙台時代の同僚や先輩から「お前はするい？」とよく嫌味を言われたものです。花巻空港は三種空港といえども様々な団体・企業が集まっており、畑の違う多くの方々との交流は楽しみでもありました。小型機でやってきて仕事の関係で花巻に長期滞在する方と情報交換を通じて仲良くなり、飲み屋に繰り出すこともありました。

そんな花巻空港出張所も平成27年には廃止となり、現在は岩手県に委託し、花巻航空気象観測所として民間の職員によって観測が継続されています。廃止が決まったころ、気象庁で航空気象部門の担当者となっていた後輩から「先輩、民間の方への航空気象の指導ということで今度発足する部署に勤務してくれませんか？」と打診がありましたが、「農業が忙しくて？無理です！」と即座に断りました。本当のところは退職してから7年も経ち、自信が全くなかったのが本音でした。

現在、花巻航空気象観測所では視程、大気現象、雲の量・高さは観測者が主に目視によって観測、また風向・風速（2分間平均・瞬間）、雨の量・強さ、気温、湿度は観測装置により自動的に観測。観測データは基地気象官署（仙台航空測候所）へ報告。仙台航空測候所では、報告された観測データのチェックを行い、航空局（CAB）や航空会社、気象庁へ通報するという自動システムになっています。

いずれ、大阪便のジャンプシート（操縦室）での機上観測、悪天時のシビアな観測、航空関係者へのブリーフィング（情報交換）、定期便の滑走路逸脱事故等々、緊張感ある多くの思い出の残る職場でした。

思い出といえば、当時空港や利用者の利便・拡充、安全対策、連携強化等をテーマに空港内の機関で組織した連絡会（名称は忘れました）がありました。小生が持ち回り幹事の時、大震災（平成7年1月17日）のあった神戸へのチャーター便計画が持ち上がり、多くの方の参加ということで、小生は大学と中三の娘二人に学校を休ませて参加させました。神戸の街は震災の爪痕が残り復興も途に就いたばかりの頃でした。娘たちにとってもいい経験になったと思っていますが、中三の娘は卒業式後「父さんのせいで皆勤賞を逃した！」などとふざけたこと？を言っていました。またこのツアーに当時空港前で事務所を開いていた小生と同郷の花巻事務機社長の古川泰夫さんも奥さんを伴って参加してくれました。

【余談：かつて花巻の気象データがテレビ・ラジオで発表されず、よく苦情をいただきました。小生が40代後半だったろうか？休日に田んぼで農作業をしていると、古川重勝さんから「何故花巻空港のデータが公表されないのか？」と質問されました。またその頃、高校の同級生で当時花巻温泉の営業課長だったI氏が元木専務さんを案内して花巻空港に小生を訪ね、「岩手県第2の都市？の気象が公表されないのはおかしい！」と花巻空港の気象データの公表を求めてきました。そのこともあり、盛岡地方気象台経由で仙台管区気象台に要望書を提出した記憶があります。現在は空港のデータが花巻の気象として公表されています。理由としては特別会計（特定の事業対象）の縛りで航空関係の気象データは航空関係者が主に利活用していましたが、規制緩和により一般にも公表されたということのようです。】



管制通信室と気象室が入っている
花巻空港管制ビル